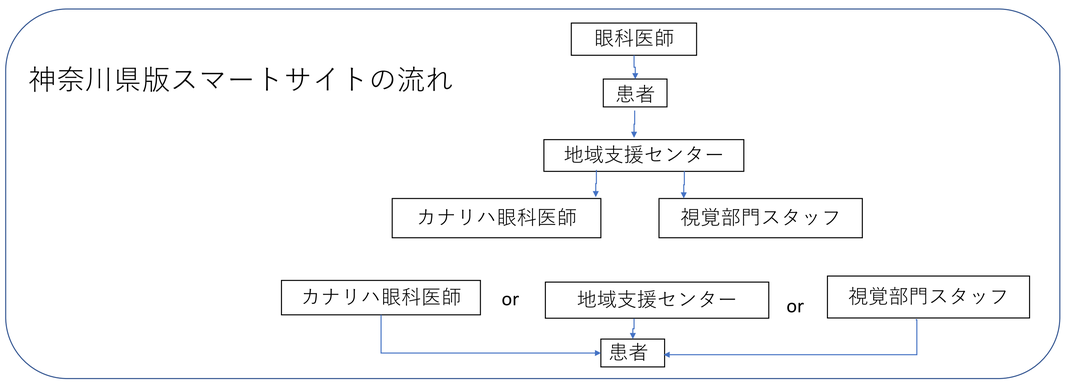
【目的】

神奈川県版スマートサイトの運用状況について調べ報告する。



【対象と方法】

相談を受け付けたものについて報告書を調べた。
期間：2019年1月～2021年12月

【結果】

① 相談件数

2019年が12件、2020年が8件、2021年が20件と増加している。

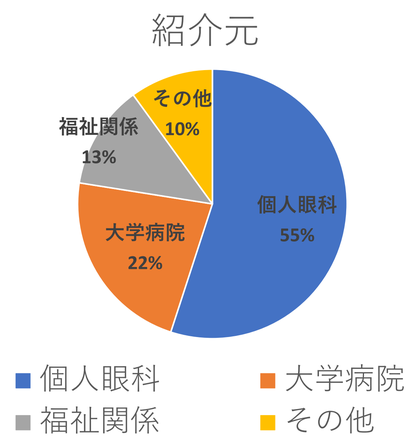
	2019	2020	2021
件数	11	9	20

② 性別

男性17名、女性23名である。

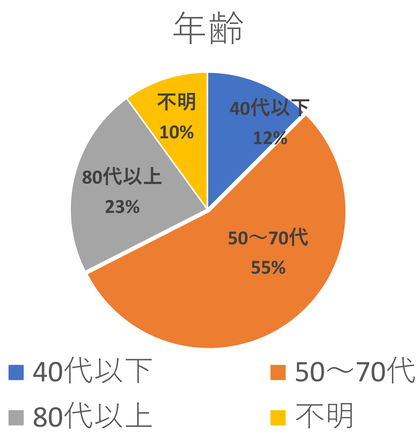
③ 紹介元

神奈川県内の個人眼科医院から紹介されたケースが最も多く、22件55％であった。
次いで大学病院からの紹介が9件、福祉からも5件12.5％あった。



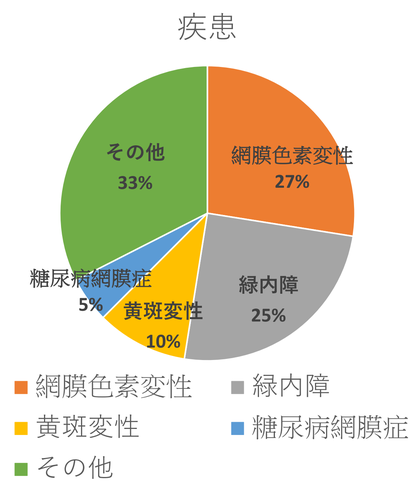
④ 年齢

40代以下が5名、12％
50～70代が22名、55％
80代以上が9名、23％
であった。
高齢者の相談が多いが、10代の相談も3件あった。



⑤ 疾患

緑内障と網膜色素変性が最も多く11名と半数以上を占める。



⑥ 視力・視野

相談者の視力に関しては不明の場合が多い。
判明している範囲では良いほうの目の視力が0.1から0.5以上が多く11名、0.1未満が5名である。
相談者の視野に関しても、不明の割合が高い。
判明している範囲では、求心性視野狭窄等の視野狭窄が9名、中心暗点が4名である。

⑦ 障害者手帳の有無

所持している者が半数を占める。

身障手帳	有	無	不明
件数	18	19	3

【事例】

①

かかりつけの個人眼科から案内され電話
↓
地域支援センターのソーシャルワーカーが相談内容を聞き取り

年齢：70代　女性
病名：網膜色素変性
手帳の有無：有（2級）
相談内容：外出時に電柱にぶつかる・段差につまづく

↓
神奈川リハビリテーション病院の眼科医、視能訓練士、七沢自立支援ホーム視覚部門スタッフで情報共有
相談内容より視覚部門スタッフが対応する
↓
視覚部門スタッフから患者へ電話し情報提供

・歩行訓練の実施機関を紹介
（神奈川県ライトセンター、七沢自立支援ホーム）
・七沢自立支援ホームの利用方法を説明
・七沢自立支援ホームの短期利用について説明
↓
自立支援ホームの短期利用（2泊3日）
・訓練内容
コミュニケーション訓練
音声ソフトの紹介
音声図書の紹介
歩行訓練
白杖の紹介、購入援助
基本的な構えと階段昇降の練習
日常生活訓練
音声付きのコンロの紹介
音声電子レンジ、炊飯器などの用具を紹介
・拡大読書器紹介、操作練習、購入援助
↓
眼科ロービジョン外来受診
・遮光眼鏡処方
・拡大読書器の操作練習

現在の不安は解消したと感想が聞かれる。
今後、困ったときに再度相談してもらうことになった。

②

かかりつけの大学病院でスマートサイトの情報を得て電話
↓
地域支援センターのソーシャルワーカーが相談内容を聞き取り

年齢：20代　男性
病名：網膜色素変性
手帳の有無：無（2級相当と言われている）
相談内容：明るいところでも足元が見えにくい
横から人が入ってくると驚く
図面引く仕事をしているが、上司に赤で指摘されても識別できない

↓
神奈川リハビリテーション病院の眼科医、視能訓練士、七沢自立支援ホーム視覚部門スタッフで情報共有
相談内容より視覚部門スタッフが対応する
↓
視覚部門スタッフから患者へ電話し情報提供

・NPOタートル紹介
（当事者同士の情報交換の場として）
・横浜訓盲院生活支援センター紹介
（手帳未収得でも相談、訓練対応できるため）
・七沢自立支援ホーム視覚部門の連絡先を伝えた
（わからないことがあったら相談したいという希望があったため）

【考案】

神奈川県ではスマートサイトは比較的遅く、2019年に開始された。
視覚障害に関する社会資源が比較的多く、相互の連携が取れてはいたが、視覚障害やロービジョンに対する情報は障害当事者に十分伝わってはいなかった。
開始とともに県内へ広まり、徐々に相談件数が増え、有用なツールとなっているものと思われる。

利益相反公表基準に該当なし